

SFRR Japan NEWSLETTER

June 1, 2019



TOP NEWS

9th Biennial Meeting of SFRR Asia 2019 SFRR Asia 2019 開催報告



成功裡に終了しました。
ご協力ありがとうございました。



会期: 2019年4月4日(木)~7日(日)
会場: 京都市国際交流会館(京都市中京区)
会長: 内藤 裕二(京都府立医科大学消化器内科准教授)

日本酸化ストレス学会会員の皆様におかれましては、第9回国際フリーラジカル学会アジア支部学術集会開催に際し、種々ご尽力を頂き、深く感謝申し上げます。

本会は、2年に一度Asia各Regionを持ち回りで開催しており、日本での開催は、2011年の第5回鹿児島に続き2回目となります。運良く天候にも恵まれ、桜の開花が学会開催を待っていたかのように一斉に咲き誇る中、200名を超える多数の方々のご参加をいただき、皆様のご協力のもと4日間の会期を無事盛會裡に終了することができました。改めてお礼申し上げます。



メインテーマを”The New Era for Redox Research”と銘打って、Plenary Lectureに韓国からYoung-Joon Surh 教授、国内からは理事の赤池孝章教授をお迎えし、また、6つのシンポジウム、Meet the Professorセッション、モーニング/アフタヌーンセッション、Special

Lectureに加え、約100題に上る一般口演/ポスターと盛りだくさんのプログラムの中、アジアを中心に世界各国から参加頂いた研究者が活発に意見を交換し、今後の当該分野の更なる発展を期待出来るものであったかと思えます。

皆様にご満足頂けるように色々工夫をしましたが、予算も限られており、至らぬ点が多くご不便をおかけしましたことをどうかご容赦下さい。

次回は、2年後の2021年に韓国での開催が決まりました。是非、ご予約下さい。



実行委員: 半田 修、高木智久、内山和彦、鎌田和浩
(京都府立医科大学消化器内科消化管研究室)



今後のSFRR Asia Biennial Meeting

次回 第10回(10th Biennial Meeting of SFRR Asia 2021)
Date: 2021
Venue: Seoul, Korea (韓国)
President: Young Joon Surh (Seoul National University)



次々回 第11回(11th Biennial Meeting of SFRR Asia 2023)
2023年インドで開催予定。



◇◇◇◇ 年次学術集会準備状況 ◇◇◇◇

第72回日本酸化ストレス学会学術集会

会期: 2019年6月27日(木)~28日(金)
会場: 北海道立道民活動センター「かでの2・7」
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル
<http://homepage.kaderu27.or.jp/index.html>
会長: 稲波 修(北海道大学大学院獣医学研究院 教授)
ホームページ: <https://www.sfrrj72.org/>



開催のご挨拶

第72回日本酸化ストレス学会学術集会
会長: 稲波 修
(北海道大学大学院獣医学研究院・教授)

いよいよ令和最初の記念すべき第72回日本酸化ストレス学会学術集会の開催となりました。本年度は札幌にて開催させていただきます。

今回の学会では特別講演としてNOXの研究について住本英樹先生(九州大学教授・生化学)とミトコンドリア病における酸化ストレス研究で三牧正和先生(帝京大学主任教授・小児科)に特別講演をお願い致しました。両先生ともそれぞれの分野での世界的第一人者で活躍されております。また、酸化ストレスと各種疾患研究を俯瞰して議論することを目的として「酸素が糾う病態と疾患 -細胞死・傷害、炎症、再生、代謝-」(北海道大学 尾崎倫孝教授)とミトコンドリアの酸化ストレスにおける今日的な意義を考える意味で「ミトコンドリアと酸化ストレス・関連疾患」(北海道大学 山田勇磨准教授)の二つのシンポジウムを企画いたしました。また、今回、本学会と関連深い学会として電子スピンスイセンス学会と日本放射線影響学会の後援を頂いており、他分野の接点の中から新しい酸化ストレス研究の展開の視点から、最新の放射線治療、磁気共鳴イメージング技術さらにはプラズマ医療の話題も一般演題やワークショップで取り上げ、企画をしているところです。



札幌の6月は1年の中で北海道では最も過ごしやすい時期で、様々な花の開花と草木の新緑が一斉に深まる季節です。丁度、会期中は「花フェスタ」が会場からほど近い大通公園で行われており、学術集会の合間に散歩されてはいかがでしょうか。また、6月半ばからはテレビ塔下や各ホテルでのピアホールの開始時期でもあり、梅雨のない乾いた北海道の気候でジンギスカン、丁度6月ごろに旬を迎える毛蟹や雲丹などの海の幸に舌鼓を打ちながら、ジョッキを傾けるのも宜しいかと思います。また、最近では北海道でも良質の米が生産されるようになり、質で本州に負けない日本酒が生産されるようになってきました。懇親会でも札幌らしい催し物や道内の日本酒などを用意しております。是非ともご堪能いただきたいと思います。



皆様、ぜひ今年度の学術集会にご参加頂き、初夏の札幌をお楽しみ下さい！
心よりお待ちしております。



6月の札幌の平均気温は16.7℃。最高気温21.5℃、最低気温12.9℃。北海道の最も過ごしやすい季節！梅雨のない北海道で爽やかな時間を過ごせそうですね。

北海道グルメも楽しみの一つ！



◇◇◇ 次期年次学術集案内 ◇◇◇

第73回日本酸化ストレス学会学術集会

会期: 令和2年6月3日(水)～4日(木)
会場: 米子コンベンションセンター (鳥取県米子市)
会長: 松浦 達也(鳥取大学医学部統合分子医化学教授)



第73回日本酸化ストレス学会学術集を令和2年6月3日(水)～4日(木)の2日間、鳥取県米子市の米子コンベンションセンターで開催させていただきますことになりました。以前にお伝えしておりました日時を変更し、約1週間早く開催することになりましたことをご迷惑をおかけしましたことをお許しください。日本過酸化脂質・フリーラジカル学会のころより参加させていただいている伝統ある学会の会長を務めさせていただくことを大変光栄に思っております。

今回は、第71回学術集会と同様に日本NO学会と合同で「第73回日本酸化ストレス学会/第20回日本NO学会合同学術集会」という形で学会を開催いたします。日本NO学会の会長は鳥取大学医学部の岡田 大教授が務められます。テーマは「レドックス学の新潮流」- New Trends in Redox Researchで、令和という新しい時代にレドックス研究がどのように展開されるのかを念頭に置き、これからプログラム等の準備を進めていく所存です。現在のところ、特別講演1、シンポジウム2、合同シンポジウム1、一般口頭発表、ポスター発表を予定しています。

学会会場があります米子市は鳥取県の西部に位置し、私の所属しております鳥取大学医学部がございます。会場の近隣には皆生温泉、国立公園大山、ゲゲゲの鬼太郎の妖怪ブロンズ像で有名な境港の水木しげるロード、そして特急列車で1時間の鳥取市には鳥取砂丘、隣の島根県安来市には庭園がミシュラン・グリーンガイド三ツ星の足立美術館がございます。鳥取県といえば松葉ガニ、二十世紀梨が有名ですが、この時期にも日本海で取れた新鮮な魚介類が味わえます。また、大山の豊富な伏流水で仕込んだ美味しい地酒も揃っています。学会とともに新緑の季節の山陰の自然、食、文化も堪能いただければ幸いです。

これから鋭意準備を進めてまいります。関係各位の皆様のご支援をお願いしますとともに、是非多くの皆様にご参加いただき、会を盛り上げていただけることを心よりお願い申し上げます。



☪☪☪ 支部だより ☪☪☪

「関東支部」 李 昌一 (神奈川歯科大学 教授)

関東支部では、年に一度12月頃に年次支部会を開催しており、昨年は、第33回を昭和関係者約100名が集まり、シンポジウム2題、ランチョンセミナー2題、一般講演16題の発表が行われ、積極的、活発な質疑応答、また集会后は若手研究者を交えた懇親会を開催しました。関東支部会は関東近辺を中心に、酸化ストレス研究の一つの拠点として学会活動を心がけており、新規の研究者の酸化ストレス学会活動への参加および入会や、地域内で共同研究や産学連携活動の支援などを通じて、関東近辺(東北、北海道も含む)における日本酸化ストレス学会の学会活動や研究活動を今後も発展的に進めて参りたいと考えております。

「東海支部」 中川 秀彦 (名古屋市立大学 教授)

2月16日(土)に名古屋市立大学名駅サテライトを会場として東海支部学術集会を開催しました。教育講演として名古屋市立大学大学院医学研究科 道川 誠 先生による歯科と認知症の関連についてのご講演があり、引き続き11演題の一般発表を行いました。会場が名古屋駅前ということもあり、愛知・岐阜・三重・静岡から多くの参加者があり、総勢38名(学生10名)が集い、アットホームな雰囲気ながら活発に議論が交わされました。学術集会後には同会場にて情報交換会が開催され、シニアも若手・学生も近い距離で交流を深めました。今回の支部学術集会は岐阜で開催されます。

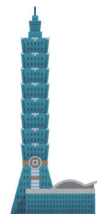


SFRR International 2020 in Taiwan

次回 SFRR Internationalは、2020年3月に台湾において開催予定です。

20th Society for Free Radical Research – International Biennial Meeting (hosted by SFRR-Asia)

Date: March 17(Tue.) – 20(Fri.), 2020.
Venue: Chang Gung University of Science and Technology (CGUST) and Chang Gung University (CGU), Taoyuan, Taiwan
Organizers: SFRR-Taiwan
President: Prof. Ying-Tung Lau



Important Dates

- March 15, 2019 : Abstract Submission Starts
- April 15, 2019 : Early-bird Registration Starts
- September 30, 2019 : Abstract Submission Closes
- October 15, 2019 : Notification of Abstract Review Results
- October 31, 2019 : Early-bird Registration Closes
- December 31, 2019 : Last Day for Cancellation of Registration with 75% Refund
- January 31, 2020 : On-line Registration Closes

Contact:

SFRR2020 Secretariat
TEL: 886-2-2766-5367#17
FAX: 886-2-2756-3323
Add: 14F-4, No. 230, Sec. 5, Nanjing E. Rd., Taipei City 10570, Taiwan, ROC.
E-mail : sfri2020@sfri2020.org



詳細は、学会HPまで: <http://www.sfri2020.org>



利益相反(COI)/倫理規定について

利益相反 (conflict of interest: COI)について

日本酸化ストレス学会では、すべての医学研究に係る産学連携活動において個人が深く関与することに関連して生じる利益相反(COI)状態を組織として適切に管理する必要性から、2019年2月より本学会における『医学研究の利益相反に関する指針』を規定しております。

- 各種COI申告書の提出をお願いしておりますので、
- ・学術集会発表時の申告書については、各学術集会の運営事務局宛
 - ・役員については、法人事務局の指示に従い、法人事務局宛に各々提出して下さい。(提出先が違いますので、ご注意ください。)

倫理指針について

人を対象とする医学系研究については、「疫学研究に関する倫理指針」(平成19年文部科学省・厚生労働省)及び「臨床研究に関する倫理指針」(平成20年厚生労働省)の両指針が統合され、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」として平成26年12月に公布され、平成27年4月より施行となりました。詳細については随時更新されておりますので、厚生労働省HPをご参照ください。これに伴い「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、各機関などにおける倫理審査委員会の承認を得て行われた研究であることが必須となりますので、ご注意くださいようお願い申し上げます。本指針に該当するものは必ず施設での倫理委員会での承認番号を抄録内に明記して下さい。また、症例を取り扱う場合は、個人情報の保護に万全の注意を払ってください。

詳細は、学会HP該当ページをご参照ください。
<http://sfrrj.umin.jp/coi.htm>

☪☪☪ 役員改編 ☪☪☪

代議員・役員(理事/監事)の任期

選任された年の定時代議員総会の終結の時から選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員総会の終結の時までとすると規定されております。来年2020年6月鳥取における総会時に任期満了となる為、改編に向けて本年秋頃から選挙準備を予定しておりますので、情報にご注意ください。詳細は学会HPに掲載して参ります。

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

日本酸化ストレス学会 東海支部 第8回学術集会
 日時：2020(令和2)年2月22日(土)午後(予定)
 会場：岐阜大学サテライトキャンパス(JR岐阜駅前)
 実行委員長：永澤秀子(岐阜薬科大学薬化学研究室 教授)

フリーラジカルスクール2019 in 魚沼
 日時：2019年8月10日(土)～12日(月・祝)
 募集人数：50名程度(講師含む)
 会場：北里大学保健衛生専門学院 北里ホール
 〒949-7241 新潟県南魚沼市黒土新田500番
 (https://www.niigata-kitasato-u.ac.jp/)



フリーラジカル・酸化ストレス研究に携わる若手研究者(学生を含む)の教育と交流を目的として、2010年より毎年継続して開催。基礎から臨床までの幅広い講義を開講。優秀な演題に対しては表彰も予定されており、日中はフリーラジカル・酸化ストレスに関する最先端の講義を楽しみ、夜は交流会や自由討論を楽しめる充実した勉強会です。

関連国際学会
SFRR Australasia and Japan(SFRR A+J 2019)
 Date: December 8-12, 2019
 Venue: Sydney, Australia
SFRR Europe Meeting 2019
 Date: June 19-21, 2019
 Venue: Ferrara, Italy
 Further information: sfr2019ferrara.it
26th Annual Meeting of the Society for Redox Biology & Medicine
 Date: November 20-23, 2019
 Venue: Planet Hollywood Resort & Casino, Las Vegas, Nevada, USA
 Further information: sfrbm.org



◇◇◇ 学会報告 ◇◇◇



【SFRR Asia 2019に参加して】

加柴美里(東京工科大学)



The 9th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (SFRR-Asia)が2019年4月にKyoto International Community Houseにて開催されました。今年の桜の開花日を予想的中させた見事なタイミングでの開催で、学会会場の周りでも美しい桜を愉ませていただきました。

東北大学の赤池先生、韓国のYoung-Joon Surh先生のPlenary Lecture, 6つのシンポジウム, Meet the Experts, Special Lectureなど多彩なセッションが開催され、桜の誘惑にも負けない熱心な聴衆が国際学会ならではの熱く活発な議論を繰り広げました。懇親会はウエスティン都ホテルの伝統ある葵殿で行われました。京の三大祭をモチーフにしたスタンドグラスや折上格天井の素敵なお部屋で、外国人の先生方はもちろんのこと、日本人の先生方もあちらこちらで記念撮影されていました。Secretary-Generalの半田先生の名司会のもと、豊國先生や各国のPresidentの先生方のスピーチがすばらしかったです。半田先生の無茶ぶりにもかかわらず、見事な心温まるスピーチをなさった秘書の伊藤さまも印象的でした。

“The New Era for Redox Research”のタイトルで平成最後の年に開催された学会です。Redox Researchの発展を実感すると同時に、昭和時代に提唱された酸化ストレスにはまだまだ研究課題が残されており、令和時代に更なる研究が期待されていることを改めて考える良い機会でした。

桜の美しい季節に素晴らしい学会を開催してくださいました、主催の内藤先生をはじめ京都府立医科大学のスタッフの皆さまの温かいHospitalityに、この場を借りて感謝申し上げます。



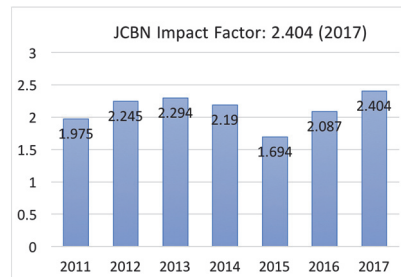
JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報 (Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中!

Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>



JCBN随時オンライン投稿を受付中

IFは継続的に上昇中。頁チャージは**会員特別割引価格**を設定しています。
八木記念学術奨励賞: 毎年会員の投稿の若手研究者(男性 40歳以下、女性 45歳以下)の中より、前年度発表の最優秀論文に対して授与。
High-Citation Award: IF向上の為に貢献のあった引用の多いものに対して授与。(原著、総説から各々選出)
 ※特別審査・掲載なども受付しております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN <jcbn@nacos.com>

◇◇◇ 関連Journal ◇◇◇

”Free Radical Research” ~SFRR Asia Official Journal~

-12 issues per year

-2017 Impact Factor: 3.038

-Ranking: 139/292 (Biochemistry & Molecular Biology)

-2017 5-Year Impact Factor: 3.136

-Journal Citation Reports® Clarivate Analytics, 2018

出版社: Taylor & Francis



会員特別価格での定期購読の受付を行っています。

ご購入希望の場合は、事務局までご連絡をお願い致します。

http://sfrj.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm

✿この度、本会会員内田浩二先生がEditor-in-Chiefに就任されました✿



Free Radical Research Editor-in-Chiefに就任して
 内田浩二(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

私は、2019年1月より、Society for Free Radical Research (SFRR Asia)のオフィシャルジャーナルであるFree Radical Research (FRR)のEditor-in-Chiefに着任しました。一番の業務は、投稿論文の「最初の関門」で、Associate Editorに回すかどうかの判断を行なっています。今のところ、3、4割程度が通過しているでしょうか。つまり、かなりの論文が私により「即リジェクト」されていることとなります。これまでの投稿論文の傾向として、フリーラジカルや酸化ストレスと直接関係がなく、単に酸化ストレスに関連したマーカーをちょこっと測定しただけの論文が比較的多いような印象です。もう少し化学や生化学などのしっかりした基礎研究をベースにした内容、例えばESRや質量分析などを使い、フリーラジカルそのものを検出したり、その作用を解析したりするような研究論文の投稿が増えるように願いたいものです。逆に言うなら、そのような内容の論文であれば、速やかに査読に回すことができます。FRRが他のフリーラジカル関連のジャーナルとは一線を画し、ユニークな個性あるジャーナルとして発展するには、こうした論文が少しでも増えることが不可欠であるように思います。

Free Radical Biology and Medicine (FRBM)がこの分野では一番幅を利かせているようですが、そのFRBMに関わるアメリカ人研究者にEditor-in-Chief就任のことを伝えると、FRRは「まだ存在してるんだ(Still exist?)」と揶揄されました。欧米のフリーラジカル学会が揃ってFRBMをオフィシャルジャーナルにしている以上、そう思われても仕方ないのかもしれない。どこかの大統領が言うように”America first”なのでしょう。酸化ストレス学会会員の皆様、鼻を明かしてやりましょう。

新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第2回



長野 哲雄
私の学術講演の聞き方 (東京大学名誉教授)

独創的な研究成果を挙げた研究者の講演を聞くことがよくあるが、若い頃、私はある事に焦点を絞って耳を傾けるようにしていた。それは、どのようなきっかけで、その発見に至ったかに注目して聞き、研究内容の詳細についてはあまり興味がなかった。特に、自分の研究分野とかけ離れている場合は、成果の内容については概略がわかれば、それで良しとしていた。それは、若い頃はなんとか独創的な研究成果をあげたいと考えており、そのためには過去のノーベル賞級の素晴らしい研究の最初のきっかけを知ることで、それが自分の研究の進め方の参考になると考えていたからである。

この日本酸化ストレス学会に關係する最重要の発見は、なんとと言ってもスーパーオキシドディスムターゼ (SOD) であろう。生体において不安定なラジカル種が生成することは、当時の学会においては奇想天外のことであり、発表当時はそのようなラジカル種が生体中に生じるはずがないとして、大御所と呼ばれる研究者に受け入れられず、認められるまでには約10年の歳月を要した。それに対して、同じ生体ラジカルである一酸化窒素 (NO) ラジカルは、スーパーオキシドが既に知られていたため、それほど意外性もなく、問題なく研究者に受け入れられたように私には思える。発見のきっかけに話を戻すと、SODの発見は他の研究の発見の経緯に比べても極めてユニークである。

例えば、生体では尿酸が生成するが、これがどのように生成するかについては、一般に生体内代謝では酸化反応が起こるので、恐らくはキサンチンが酸化されてきたのであろうと推測できる。その推測は、当然生体中にキサンチンを酸化する酵素があるに違いないとの考えにつながる。結果として、キサンチンオキシダーゼの発見に行き着く。キサンチンオキシダーゼの発見に意外性はほとんどない。

しかしながら、SODの場合はかなり状況が異なる。それは、現在の最新の分析技術をもってしても、生細胞、生体組織中からスーパーオキシドそのものを直接検出することはできない。生体で起こる事象にスーパーオキシドが関与しているか否かはSODの添加により判断している。SODがこのように検出することすなわち生体ラジカル種であるスーパーオキシドを基質にしていることが、どのようにして発見されたのであろうか。SODの発見のきっかけは、キサンチンオキシダーゼのように推測することは難しい。

このSODの発見の経緯については、ここでは紙数の関係で述べることはできないが、もし興味あれば、以前このことについて書いた拙文(“生体内のフリーラジカルを除去する酵素 -スーパーオキシドディスムターゼ発見物語-”現代化学, No.292, 7月号, 1995)をご覧ください。

最新の科学の研究内容を知ることはもちろん重要ではあるが、それだけではなく、その発見のきっかけに注目すると、意外に自分の研究の進め方に役立つように私には思える。

2019年上半期に開催されました SFRR 関連国際学会にて、下記の方が若手奨励賞 (Young Investigator Award) を受賞されました。益々のご活躍をお祈り致します。



9th SFRR Asia Biennial Meeting
The 9th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia
- The New Era for Redox Research-
会 期: April 4-7, 2019
場 所: 京都市国際交流会館 (Kokoka)

SFRR Asia YIA (8名)
SFRR ASIA TRAVEL AWARD Supported by T&F
1. Soma Saecidi (Korea)
2. Hanbit Lee (Korea)

SFRR Asia Young Investigator Award
3. Akira Nishimura (Japan)
4. Fumiya Ito (Japan)



T & F Young Investigator Award
5. Shun Takayama (Japan)
6. Takujiro Homma (Japan)



T & F Prestigious Poster Award
7. Hiroyuki Yasuda (Japan)
8. Zan Li (Japan)

日本酸化ストレス学会 YIA (5名)

安田 律, Tianli Zhang, 多村 知剛,
Mojamad Abdul Hai Siddique,
太田崇之



* お詫びと訂正

前号 (2019年1月号)
2018年度LisbonでのSFRR2018の際の日本酸化ストレス学会 YIA 受賞者一覧より小林 慧子先生のお名前が抜けておりました。ここにお詫びして訂正いたします。正当には次の6名です。

加藤 優吾, 八丁 崇暢, 伊藤 紘
向井 理英子, 檜垣 遼河, 小林 慧子



SFRR Japan (日本酸化ストレス学会) は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◇ SFRR International & Asia News ◇

SFRR Asia 役員改編のお知らせ

President: Prof. Yang Liu (China)
President-elect: Dr. Yuji Naito, MD, PhD. (Japan)
Secretary-general: Dr. Osamu Handa MD, PhD. (Japan) **新任**
Treasurer: Prof. Hideyuki J. Majima (Japan)



2019年度SFRR Asia役員会において、内藤裕二先生のPresident-elect選出に伴い空席になっておりました Secretary-generalに、半田修先生が満場一致で選出されました。Congratulation!



歴代会長 (President) は下記の通りです。
Past 1st: Toshikazu Yoshikawa (Japan)
Presidents: 2nd: Myung-Hee Chung (Korea)
3rd: Toshihiko Ozawa (Japan)
4th: Baolu Zhao (China)
5th: T. Paul A. Devasagayam (India)
6th: Kalanithi Nesaretnam (Malaysia)
7th: Jeen-Woo Park (Korea)
8th: Daniel Tsun-Yee Chiu (Taiwan)
9th: Shinya Toyokuni (Japan)



SFRR Asia : インド、韓国、中国、日本、マレーシア、タイ、台湾

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

一般社団法人としての初年度が終わり、2年目を迎えました。関係各位のご尽力により、日々体制を整えつつあります。本年5月1日には、新天皇の御即位によって、新しい年号を迎えました。令には良い、和にはまとまったとの意味があるとの事ですので、「令和」の名にふさわしく、本会も会員一丸となって、前向きに明るく発展していくことを期待して、令和初のニュースレターをお届けします。

なお、法人化により各種手続きの変更なども生じています。2018年度は、会費納入状況が少し芳しくなかったようですので、会費の未納がないように、会員の皆様におかれましては、今一度ご自身の会費納入状況をご確認頂けましたら幸いです。少しずつ新しい企画も検討しておりますが、掲載希望の記事などございましたら是非ご意見をお寄せください。



NL問合せ/連絡先: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp

SFRR Newsletter 2019年6月号
発行: 2019年6月27日

一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局
(総務委員会: 内藤裕二・半田 修)

法人事務局: 〒602-8048
京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内
Tel: 075-415-3661 Fax: 075-415-3662
内容に関するお問い合わせ: E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp
HP: <http://sfrj.umin.jp/index.htm>